

# ユニセフの活動から環境問題について考える

富山県南砺市立福光西部小学校 研究代表者 石川 明代先生  
TEL 0763-58-1004 FAX 0763-58-1070

## 1. 研究のねらい

本校の5・6年生は、「総合的な学習の時間」で〈環境〉について自分のテーマに沿って個人学習を積み重ねてきた。その中に、世界には学校に通えなかったり戦争に加わっていたり、十分な栄養がとれずに死んでしまったりする子どもたちがいることに気づいた児童がいた。それは、先進国である私達が贅沢を求めるゆえに引き起こされる地球温暖化も原因の一つと考え、温暖化を食い止めようとエネルギーチェックを行ったり地域の方々にも呼びかけたりと積極的に活動を行ってきた。また、全校で育てたお米の一部を売ってユニセフに募金しようと考えた。

活動を進めるに当たって、地球温暖化が環境や世界の子どもたちにどのような影響を与えているか、ユニセフの活動について調べて自分たちにできることを考え、学んだことを進んで広めるというねらいから学習を進めた。

## 2. 活動計画 (15時間)

| 時 間  | 主 な 学 習 活 動  |
|------|--|
| 1～5  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 〈環境〉という言葉から連想したことについて調べる。</li> <li>○ 地球温暖化が世界にどのような影響を及ぼしているかについて調べ学習を行う。</li> <li>○ まとめたことを発表する。</li> <li>○ ユニセフの活動について調べる。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本ユニセフ協会HP「ユニセフってなあに」</li> <li>・小冊子「ユニセフと世界のともだち」</li> </ul> </li> </ul> |
| 6～7  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日本ユニセフ協会石川友の会の方からお話を聞く。水瓶運びを体験する。</li> </ul>  |
| 8～13 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 調べたことを基に寸劇（世界の子供たちの現状を知らせ、地球温暖化防止のためのエコ活動を呼びかけるもの）を作成し、下級生や家族、地域の方々に広める。</li> </ul>   |
| 14   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地球温暖化防止に役立つ「環境の花」を作り、地域や家庭に呼びかける。</li> </ul>  |
| (課外) | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全校で育てたお米を地域のフェスタで販売する。</li> <li>○ ユニセフ募金を行う。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニセフ手帳 ・ポスター 「ユニセフってなあに①～②」</li> <li>・ちらし 「守りたい、子どもの命・・・子どもの未来」</li> </ul> </li> </ul>   |
| 15   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 調べたことを発表する。</li> </ul>  |

## 3. 実 践

### (1) 世界の子どもたちを救うために

#### ① ユニセフ学習会

世界の子どもたちの現状を詳しく知るため、「日本ユニセフ協会石川友の会」へ依頼してユニセフの活動について説明を聞いた。水瓶運びや飴を分け合う活動を通して、子どもたちは世界の子どもたちの現状を実感し、私達にできることは何かを考えた。





わたしと同じくらいの子供がひどい目にあっていることが分かった。ほんの小さなことで悲しんではいけなと思った。人を殺さなければ自分も殺されるというのは、つらすぎるしざんこくすぎる。大人は自分勝手。戦争をしている大人が悪い。それをやめるように言っているユニセフは偉いと思う。水がめを持ってみると重かった。15kgもある水がめを2kmを何度も行き来しなければならぬからとても大変だと思った。

5人であめ1つを分けるときはとても悲しい気分だった。こんなことが毎日続くのはとてもつらいだろうなあと思った。あめを1人に30個ももらえる日本人はこんなに食べて「うーん。太った。」と思うのなら、貧しい人々に分けてあげられたらよい。

明日、いえ今日から行動しようと思った。



## ② 世界の現状を知ってもらうための劇発表会

世界の子どもたちの現状や、私達にできることを劇にして、全校や保育園、地域の方々に発表した。地域の方々に伝えるだけでなく、自分達の生活を振り返り、地域の方々の前で誓うことによって、これからのエコ活動の目当てをもつことができた。



地域の敬老会で、世界の子供たちの現状を伝える劇をしました。砂漠化が進んでいる地域の様子や飢餓難民の写真を見せたら、ため息が聞こえました。私たちのエコ活動についておじいちゃんやおばあちゃんたちの前で約束をしました。少しでも温暖化が食い止められるといいです。



## ③ 地域の活動に参加して募金活動

ユニセフへの募金活動を自分達も行いたいという願いから、地域の「ぎんなんフェスタ」に参加し、募金活動を行った。

ぎんなんフェスタで、全校で作ったもち米・僕たちがぬったぞうきんを売りました。募金をしてくれた人にお手製のマスコットとチラシを配りました。〈よさこい〉をしたらたくさん人が集まってくれて、募金もたくさん集まりました。もち米が完売だったので、いろいろな子供たちを助けられそうです。



## (2) 「ストップ地球温暖化」の活動

### ① エネルギーチェック

子どもたち一人一人が自分の家庭で使っている電気・ガス等のエネルギーや水道を調べると無駄遣いをしていたことに気づいた。目当てをもって節約に取り組むことができた。また、学校内でも節電・節水やりサイクルを呼びかけ、ポスターを作って掲示した。子どもたちの活動が全校に広まり、節約できるようになってきた。

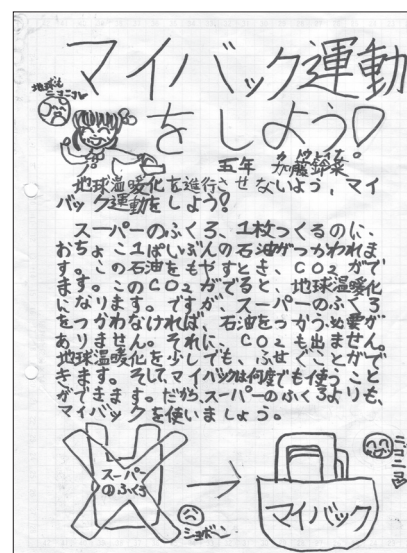
## ② 環境の花の栽培

二酸化炭素を吸収する植物を育てようと呼びかけたり、全校に「環境の花」を配って育ててもらったりして、環境をよくする活動へとつなげることができた。夏休み中に家庭に持ち帰り、環境の花を育てることで家庭での環境への意識も高まってきた。また、隣接する保育園に環境の花を植えてプランターをプレゼントした。



## ③ 地域の方へマイバックの呼びかけ

スーパーの袋には、たくさんの石油が使われていることを調べた子どもは、マイバックを利用するようにチラシを作り、地域の方々へ呼びかけを行った。家族にマイバックを使うように呼びかけている。



## ④ 新・省エネルギーについての学習

シャープ株式会社の「環境授業」とエネルギー庁の「エネルギー・コミュニケーター」の実験を通して、太陽光発電について学んだり、二酸化炭素と地球温暖化の関係を確かめたりした。自分たちの生活が地球温暖化を招いていることに気づき、少しでも温暖化を食い止め、世界の子どもたちへの悪い影響が少なくなるように考えられるようになった。



〈いろいろな発電方法について学ぶ〉



〈二酸化炭素による温暖化の実験〉

レモンや炭、温度差によって電気を作ることができるなんてすごかったです。また、モーターや発電の仕組みがわしく分かりました。自然エネルギーは、環境にいいけど、都合の悪い点もあると分かりました。今使っているエネルギーは大切だと知りました。そのエネルギーでむだなことをしないようにしたいです。

## 4. 成果と課題

環境について調べてきたことが、世界の子どもたちの現状と密接なつながりがあることに気づき、5・6年生の子供たちは自分たちにできることをしようと寸劇作りをしたり募金活動を計画したりした。そして、ユニセフの資料を使って世界の子どもたちの現状を知らせ、自分たちの生活を見直し、家庭や地域に呼びかけることができた。

これらの学習で学んだことを生かし、環境や生命についての学習を続けていきたい。そして、学んだことをもっと地域に広めていきたいと考える。